

分詞の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール: -ing と過去分詞を「している／されている」で見分け、名詞の説明として読める

学び直しから始めるクラス 偏差値のめやす ~40程度 この版は名詞を説明する2つの位置と、感情を表す分詞だけを見ます

気づき AとB、どちらも bore (退屈させる) から作った形。何が違う? (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	The movie was boring.	その映画は退屈だった。
B	I was bored during the movie.	映画の間、わたしは退屈していた。

-ing は「まわりをそうさせる」側、過去分詞は「そうさせられた」側。だから I was boring. と書くと「わたしは (人を) 退屈させる人間だ」になってしまいます。分詞は**形容詞のはたらき**で、見分ける手順はいつも同じ—その名詞は「**している**」のか「**されている**」のか。a sleeping baby (眠っている赤ちゃん) と a broken window (割られた窓) も、同じ問いで決まります。

整理 分詞の基本の3つ

形	作り方	表すこと	例文
名詞の前から	分詞I語 + 名詞	している／されている	Don't touch the broken glass. 割れたガラスにさわらないで。
名詞のうしろから	名詞 + 分詞 + 語句	語句がつくと、うしろへ回る	The boy running over there is my brother. 向こうで走っている少年はわたしの弟だ。
感情を表す分詞	be + -ing／be + 過去分詞	させる側／させられた側	I was excited by the game. その試合にわくわくした。

この3つが見分けられれば、この単元はまず十分です。手順は**説明される名詞を先に見つけて、その名詞が「している」のか「されている」のかを言う**—それだけ。分詞がI語なら名詞の前、語句がついたら名詞のうしろです。

確認 () 内から正しいほうを選ぼう。 **知識・技能**

- (1) The girl (playing / played) the piano is my sister.
- (2) I can't use this (breaking / broken) umbrella.
- (3) This is a letter (written / writing) in French.
- (4) The news was very (surprised / surprising).

確認の解答

(1)	playing	the girl は「弾いている」側。語句がつくので名詞のうしろへ。
(2)	broken	umbrella は「こわされた」側＝過去分詞。I語なので名詞の前。
(3)	written	letter は「書かれた」側。write-wrote-written の3つ目を使う。
(4)	surprising	news は人を「驚かせる」側＝ -ing。人が主語なら I was surprised.

つまずき① I was boring. と書いてしまう

感情を表す動詞 (bore / excite / surprise / interest / move / tire) は、-ing が「させる側」、過去分詞が「させられた側」です。人が「退屈した」なら過去分詞。日本語では両方「退屈だ」なので、ここが最も多い誤りになります。ものが主語なら -ing、人が主語なら過去分詞が目安ですが、根っこは「している／されている」ひとつです。

× I was very boring at the party. → ○ I was very bored at the party.
I was boring. は「わたしは人を退屈させる人間だ」。ほめ言葉のつもりで使わないよう、一度だけ笑わせて印象に残す。

つまずき② I語なら前、語句がつけばうしろ

分詞がI語だけなら名詞の前 (a sleeping baby)、語句を連れているなら名詞のうしろ (a baby sleeping in the next room)。日本語は全部を前に置くので、そのまま英語にすると崩れます。

× The playing the guitar boy is my friend. → ○ The boy playing the guitar is my friend.
the guitar という語句がつくので、かたまりごと名詞のうしろへ回る。

つまずき③ 分詞のかたまりを文だと思ってしまう

The boy running in the park はまだ主語のかたまりで、文ではありません。読むときは「うしろに動詞が来る」と待ち構え、書くときは「この文の動詞はどれか」を最後に確かめます。

× The boy running in the park. → ○ The boy running in the park is my brother.
running は boy の説明。文の動詞は is. / 「走っている」を言いたいだけなら The boy is running in the park.

つまずき⑤ 過去分詞の形が作れない

内容は分かっているのに、形が作れずに×になる答案が学び直し・基礎固めの帯でいちばん多く出ます。「されている」側は過去分詞—規則動詞は -ed (repair→repaired)、不規則動詞は3つ目の形 (write-wrote-written / break-broke-broken / take-took-taken)。誤りの大半は不規則動詞で出ます。分詞は形が作れて初めて使えます。

× This is a letter writed in French. → ○ This is a letter written in French.
過去形 (wrote) でも -ed (writed) でもなく、3つ目の written。

授業のひとつ 用法名 (限定用法・叙述用法) を先に覚えさせないでください。名前あてゲームになり、本文を読むときに残りません。この帯は名詞の説明として読めるところまでで十分です。過去分詞の形 (written / broken / taken) が作れずに止まる生徒が多いので、導入の1分をつづりと不規則動詞に使ってください。